

第 78 回 幹 事 会

平成 2 1 年 5 月 2 8 日

日 本 学 術 会 議

第 7 8 回幹事会議事次第

日時：平成21年5月28日（木） 14：00

- | | | | |
|-----|-----------|------|--|
| I | 非公開審議事項 | 提案1 | 課題別委員会の委員の決定 |
| | 1 委員会関係 | 提案2 | 分野別委員会運営要綱の一部改正及び委員の決定 |
| | 2 その他 | | |
| II | 審議事項 | 提案3 | 提言「経済危機に立ち向かう包摂的社会政策のために」 |
| | 1 提言等 | 提案4 | 日本学術会議細則の一部改正（総会提案） |
| | 2 規則等 | 提案5 | 分野別委員会運営要綱の一部改正 |
| | 3 団体の指定 | 提案6 | 日本学術会議協力学術研究団体の指定 |
| | 4 国際会議関係 | 提案7 | 平成21年度代表派遣（7月～9月） |
| | 5 シンポジウム等 | 提案8 | 「第58回理論応用力学講演会」 |
| | | 提案9 | 公開シンポジウム「芸術とインタラクティビティ」 |
| | | 提案10 | 公開シンポジウム「文化財と史料保存問題を考える」 |
| | | 提案11 | 公開シンポジウム「こどもの貧困とセーフティ・ネット」 |
| | | 提案12 | 公開シンポジウム「愛媛から世界へ 農林水産学と社会貢献」 |
| | | 提案13 | 「英国科学実験講座」開催20周年記念シンポジウム |
| | | 提案14 | シンポジウム「ものづくりの持続的なイノベーションへむけた基盤科学技術提言」 |
| | | 提案15 | 市民公開講座「見るよろこび、聞くよろこび、AVD (Auditory Visual Disease) の克服に向けて—2つの目、2つの耳—」 |
| | | 提案16 | シンポジウム「平成21年度女子中高生夏の学校2009～科学・技術者のたまごたちへ～」 |
| | | 提案17 | 公開シンポジウム「海と陸と人と」 |
| | | 提案18 | 日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会の開催 |
| 6 | 後援 | 提案19 | 国内会議 |
| | | 提案20 | 国際会議 |
| III | その他 | | 部附置委員会の設置について |
| | | | 日本学術会議が主催するシンポジウム等の開催について |

資料2

第78回幹事会（5月28日）出席者一覧

会長	金澤 一郎
副会長	大垣 眞一郎
副会長	鈴木 興太郎

第一部 部長	広渡 清吾
第一部 副部長	小林 良彰
第一部 幹事	木村 茂光
第一部 幹事	山本 眞鳥

第二部 部長	浅島 誠
第二部 副部長	北島 政樹
第二部 幹事	山本 正幸
第二部 幹事	鷺谷 いづみ

第三部 部長	岩澤 康裕
第三部 副部長	後藤 俊夫
第三部 幹事	池田 駿介
第三部 幹事	海部 宣男

事務局長	竹林 義久
------	-------

諸 報 告

第 1	前回幹事会以降の経過報告	ページ
1	会長等出席行事	1
2	会長メッセージ	1
3	審議付託等	2
4	委員会委員の辞任	3
第 2	各部・各委員会等報告	
1	部会の開催とその議題	4
2	幹事会附置委員会の開催とその議題	4
3	機能別委員会の開催とその議題	5
4	分野別委員会の開催とその議題	6
5	課題別委員会の開催とその議題	13
6	サイエンスカフェの開催	14
7	総合科学技術会議報告	15
8	慶弔	17

第1. 前回幹事会以降の経過報告

1 会長等出席行事

月 日	行 事 等	対 応 者
4月21日(火)	CRDS 創立5周年記念シンポジウム ※来賓ご挨拶	金澤会長
	日本原子力学会 50周年記念式典 ※来賓ご祝辞	金澤会長、渡辺参事官
	総合科学技術会議本会議	金澤会長、竹林局長
4月28日(火)	科学技術・学術審議会総会	金澤会長
4月30日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
5月2日(土)	日本病理学会春期特別総会 シンポジウム4 ※開会ご挨拶	金澤会長
5月13日(水)	2009年IEEEロボティクス・オートメーション国際会議 ※主催者ご挨拶	唐木副会長
5月14日(木)	総合科学技術会議有識者会合	金澤会長、竹林局長
5月19日(火)	往訪／野田大臣	金澤会長、竹林局長、綱木次長、 原嶋参事官
5月19日(火)	英国における人権問題についての事前調査 (The Royal Society 会長 Lord Rees 氏、在英国 日本大使館特命全権公使西ヶ廣氏との面会)	鈴村副会長
5月21日(木) ～23日(土)	国際人権ネットワーク第9回隔年総会	鈴村副会長

2 会長メッセージ

会長からのメッセージ

日本学術会議 会員・連携会員の皆様へ

「世界最先端研究支援強化プログラム（仮称）」について

去る4月17日の朝日新聞朝刊をご覧になって驚かれた方も多かったのではないのでしょうか。少なくとも私は驚きました。「最先端研究に巨額支援 計 2700 億円、30 テーマに」という見出しが踊っていたからです。政府・与党が決めた経済危機対策の一環であるとのこと。この「世界最先端研究支援強化プログラム計画（仮称）」は、一昨日の総合科学技術本会議で正式に決定されました。わが国を代表する研究者と研究課題を総理大臣が責任を持って選び、その後に研究実施支援機関を決めるというこれまでに例のない試みの他、この研究費を基金として複数年度に渡って使えるよ

うにする、など研究費使用に関する自由度を格段に上げるという画期的な試みも計画に含まれています。

本プログラムの設計では、選ばれる研究者は大学人、独法人、企業人のいずれもありうるのですが、選ばれた研究者が研究実施機関を選ぶことになっており、あくまでも研究者中心というコンセプトに貫かれています。さらに研究費の使い勝手が一段と良くなるなど、むしろ歓迎すべきプロジェクトであるとは思いますが、しかしながら、これが経済対策としての補正予算という枠組みの中で突然出てきた緊急提案であり、「最先端研究」「3～5年間で世界をリードする研究成果を達成」「出口を見据えた開発研究」などの文字が並んでいるために、日本学術会議の会員・連携会員の中には大きな戸惑いを抱かれる方も多いのではないかと思います。

なぜならば、日本学術会議では今、「日本の展望－学術からの提案」をまとめるために、議論を積み上げている最中だからです。そのなかで、大学、研究独法などのあり方はもちろんのこと、わが国の学術に関する長期展望を描きつつあります。その流れから言えば、今回のプロジェクトも短期間で結果が出るような研究ばかりに目を向けるのではなく、例えば最先端研究を支えるインフラの整備（例えば、生命科学分野でのリソースバンク事業やナノテクノロジー分野での試作工場など）など、これまで十分に手当てされてこなかったけれども長期的に見ればわが国の研究の下支えとして極めて重要である部分にも目を向けるべきではないかと個人的には思っています。勿論、大学や独法のインフラ整備や基盤的資金の適切な手当ても重要であることは言う待ちません。この点については既に日本学術会議では提言をまとめています。

けれども、計画がここまで来た以上は、このプロジェクトが健全な形で実行・遂行される事を願うものです。その意味から、会員・連携会員の皆様におかれましては、この巨額の研究費によって若い研究者が過度に甘やかされることがないように、またこの思い切った投資によっても十分な成果がなかったと言われることがないように、冷静な長期的な視野をもってこの問題に向き合って下さることを望みます。私も、機会をとらえて総合科学技術会議関連の有識者議員会合等の場でも発言していきたいと考えていますが、日本学術会議として発言すべきこと等についてご意見がございましたらお寄せ頂ければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

平成21年4月23日

日本学術会議会長 金澤 一郎

3 審議付託等

件 名	申 請 者	審議付託先
次世代スーパーコンピューティング・シンポジウム 2009 後援	独立行政法人理化学研究所理事長	第三部
自動制御連合講演会後援	システム制御情報学会会長	第三部

第 11 回日本感性工学会大会後援	日本感性工学会会長	第三部
日本熱物性シンポジウム後援	日本熱物性学会会長	第三部
平成 2 1 年度衝撃波シンポジウム後援	平成 2 1 年度衝撃波シンポジウム 実行委員長	第三部
第 3 回日本社会福祉学会フォーラム	日本社会福祉学会会長	第一部
日本学術会議協力学術研究団体の指定	日本総合学術学会他	科学者委員会
学術刊行物の審査の指定	郵便事業株式会社各支社長	科学者委員会

4 委員会委員の辞任

○ 地球惑星科学委員会 IUGS 分科会 IAH 小委員会

西垣 誠 (平成 21 年 3 月 31 日付け)

○地球惑星科学委員会社会貢献分科会 高橋 桂子 (平成 21 年 4 月 27 日付け)

第2. 各部・各委員会報告

1 部会の開催とその議題

- (1) 第三部拡大役員会 (第7回) (4月17日)
 - ①日本の展望について ②夏季部会について ③その他
- (2) 第二部拡大役員会 (第1回) (5月26日)
 - ①日本の展望の今後の進め方について ②その他
- (3) 第一部拡大役員会 (第5回)・日本の展望委員会
人文・社会科学作業分科会 (第5回) 合同会合 (5月28日)
 - ①報告
 - 1) 幹事会
 - 2) 機能別委員会
 - 3) 日本の展望・起草分科会
 - 4) その他
 - ②協議事項
 - 1) 夏季部会の件
 - ・連携会員の出席について
 - 2) 日本の展望について
 - ・分野別委員会の審議状況
 - ・人文・社会科学作業分科会報告案について
 - ・その他

2 幹事会附置委員会の開催とその議題

- (1) 日本の展望委員会 個人と国家分科会 (第7回) (4月21日)
 - ①話題提供 ・広渡清吾委員 ・井上達夫委員
- (2) 日本の展望委員会 情報社会分科会 (第5回) (4月23日)
 - ①審議の経過および検討の論点の整理について ②分科会報告書案について
 - ③その他
- (3) 日本の展望委員会 基礎科学の長期展望分科会 (第6回) (4月24日)
 - ①基礎科学・基礎研究の考え方について ②報告書のとりまとめについて
 - ③その他

(4) 日本の展望委員会 起草分科会 (第3回) (4月30日)

- ①ブダペスト宣言について
- ②「基礎研究についての産業界の期待と責務」(産業競争力懇談会(COCN))について
- ③基礎科学・基礎研究の考え方について
- ④報告書の取りまとめについて
- ⑤今後の進め方について
- ⑥その他

(5) 日本の展望委員会 起草分科会 (第4回) (5月21日)

- ①第3期科学技術基本計画のフォローアップに関する調査研究について
- ②第4期科学技術基本計画における課題について
- ③報告書素案について
- ④今後の進め方について
- ⑤その他

(6) 日本の展望委員会 地球環境問題分科会 (第6回) (5月25日)

- ①報告書(草案)の作成について
- ②その他

(7) IT環境整備推進委員会 (第1回) (5月26日)

- ①本委員会設置の目的、役割、審議事項等について
- ②役員の選出について
- ③日本学術会議のIT化の現状について
- ④日本学術会議におけるIT化に向けての今後の取組について
- ⑤今後の運営について
- ⑥その他

(8) 日本の展望委員会 大学と人材分科会 (第5回) (5月28日)

- ①日本の展望委員会報告
- ②分科会提言について
- ③その他

3 機能別委員会の開催とその議題

(1) 科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会 (第2回) (4月20日)

- ①海外の事例について
- ②学術の大型研究計画に関する調査について
- ③今後の進め方について
- ④その他

(2) 科学者委員会 学術誌問題検討分科会 (第2回) (4月27日)

- ①出席者紹介について
- ②学術情報へのアクセスの平等化について
- ③国内発行の英文誌発行の必要性、発刊体制について
- ④今後の進め方について
- ⑤その他

(3) 科学者委員会 知的財産検討分科会 (第1回) (4月27日)

- ①委員長、副委員長及び幹事の選出
- ②知的財産検討分科会の設置について
- ③「学術団体における知的財産制度のあり方についてのアンケート調査」について
- ④議論のポイントについて
- ⑤今後の進め方について
- ⑥その他

(4) 科学者委員会 学協会の機能強化方策検討等分科会 (第5回) (5月11日)

- ①学術法人法(仮称)に関する今後の審議方針について
- ②シンポジウム「学協

会の新公益法人制度への対応の現状と課題」について ③今後の検討課題について ④その他

(5) 科学と社会委員会 科学力増進分科会 (第6回) (5月18日)

- ①サイエンスアゴラ2009について ②サイエンスカフェについて
- ③女子中高生夏の学校2009について ④今期活動について ⑤その他

(6) 科学者委員会 (第11回) (5月21日持ち回り開催)

- ①日本学術会議協力学術研究団体の指定 (各部回答分) ②日本学術会議協力学術研究団体の指定 (各部への検討依頼) ③平成21年度日本学術会議主催公開講演会 (第3、4回) の企画案募集 ④日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会の開催

4 分野別委員会の開催とその議題

第一部担当

(1) 法学委員会 法学系大学院分科会 (第2回) (4月17日)

- ①今後の活動方針について
 - 1) アンケートの実施について (アンケート項目の検討)
 - 2) シンポジウムの実施について
 - 3) その他
- ②法科大学院と研究者養成をめぐる議論について
 - 1) 日本学術会議第19期第2部の報告書
 - 2) 中教審法科大学院部会での検討
 - 3) 各大学
 - 4) その他
- ③その他
- ④次回日程

(2) 経営学委員会 会計学分科会 (第3回) (4月19日)

- ①「日本の展望」最終原稿取りまとめに係わるスケジュールの確認
- ②各担当者からの中間報告の内容について発表
- ③内容レビュー改定点についての議論
- ④その他

(3) 地域研究委員会 多文化共生分科会 (第3回) (4月19日)

- ①多文化共生について問題として取り上げるべきと考える事項について (未発表者の方、10分程度発言)
- ②論点の整理 (先回および議論となったことについてのまとめ)
- ③その他

- (4) 地域研究委員会 地域研究展望分科会 (第4回) (4月26日)
 ①地域研究関連「日本の展望」原案の検討 ②その他
- (5) 言語・文学委員会 「古典文化と言語」、「科学と日本語」合同分科会
 (5月1日)
 ①「日本の展望」言語・文学分科会の提言概要書と日本語のデータベースの構築について
 ②古典籍書誌データベースについて ③今後のスケジュール ④その他
- (6) 地域研究委員会 紛争解決・災害復興のための国際貢献分科会
 (第1回) (5月1日)
 ①役員の選出 ②趣旨説明 ③今後の予定 ④その他
- (7) 経済学委員会 ワーク・ライフ・バランス分科会 (第1回) (5月8日)
 ①役員の選出 ②今後の活動方針について ③その他
- (8) 法学委員会 「リスク社会と法」分科会 (第2回) (5月8日)
 ①報告書文案の検討 ②今後の方針 ③その他
- (9) 経営学委員会 会計学分科会 (第3回) (5月10日)
 ①「日本の展望」最終原稿取りまとめに係わるスケジュールの確認
 ②各担当者から中間報告の内容について発表
 ③内容レビュー改定点についての議論
 ④その他
- (10) 心理学・教育学委員会 法と心理学分科会 (第2回) (5月15日)
 ①司法・矯正領域における人材養成と心理学 ②その他
- (11) 史学委員会 歴史学とジェンダーに関する分科会 (第3回) (5月16日)
 ①シンポジウムのテーマと報告書について ②その他
- (12) 哲学委員会 人文知と臨床哲学分科会 (第2回) (5月16日)
 ①大学における哲学思想系の教育・研究の現状の把握について
 ②「日本の展望」の作成分担について
- (13) 心理学・教育学委員会・史学委員会・地域研究委員会合同
 高校地理歴史科教育に関する分科会 (第3回) (5月17日)
 ①「中等教育における人類学・考古学の役割」
 報告者 杉本良男 「人類学と中等教育」
 常木 晃 「日本史教育と考古学」

關 雄二 「世界史教育と考古学」

(14) 史学委員会 IUHPS分科会 (第2回) (5月23日)

- ①第23回国際会議の代表の決定
- ②第23回国際会議の日本からの推薦役員
- ③第23回国際会議の各国の財政負担カテゴリーの変更案に対する対応
- ④National Reportの作成について ⑤その他

(15) 政治学委員会 政治思想分科会 (第2回) (5月24日)

- ①今後の活動方針について ②その他

(16) 心理学・教育学委員会 心理学教育プログラム検討分科会
(第3回) (5月25日)

- ①心理学教育の標準的学士課程カリキュラム策定についての検討
- ②初等・中等教育における心理学的なものの考え方の検討
- ③各種キャリアパスの養成カリキュラムと国家資格

第二部担当

(1) 農学委員会 農学分科会 (第2回) (4月16日)

- ①有機農業関連ヒアリング (予定)
- ②21期における農学分科会の活動について
- ③その他

(2) 薬学委員会 薬剤師の職能とキャリアパス分科会 (第2回) (4月17日)

- ①今後の活動について ②その他

(3) 薬学委員会 薬学教育分科会 (第2回) (4月17日)

- ①4年制と6年制の薬学教育制度における教育・研究体制の構築等について
- ②その他

(4) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、
環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会
(第4回) (4月21日)

- ①小委員会からの報告 ②各委員からみた現状と課題等についての報告
- ③提言の方向性 ④その他

(5) 基礎医学委員会・臨床医学委員会合同 医学教育分科会

(第2回) (4月22日)

①各委員による現状、問題点等についての報告(分担) ②その他

(6) 健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会(第3回)(4月24日)

①各ワーキンググループにおける活動計画

1) 指針の策定(提言)

2) 男女共同参画

3) ターミノロジー

4) 若手研究者の育成

5) 将来展望

②日本の展望委員会への報告事項

③健康・生活科学委員会への報告事項

④今後の活動計画

⑤その他

(7) 健康・生活科学委員会 看護学分科会(第3回)(4月24日)

①高度実践看護師の役割と教育について ②その他

(8) 基礎生物学委員会 IUBS分科会(第1回)(4月28日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②委員の追加について

③IUBS次期役員候補の推薦について ④その他

(9) 臨床医学委員会 感覚器分科会(第2回)(4月28日)

①第3回感覚器障害市民公開講座「見るよろこび、聞くよろこび」の
主題と演者の決定 ②今期の感覚器分科会の方向について ③その他

(10) 健康・生活科学委員会 生活科学分科会(第3回)(4月28日)

①第21期の活動計画案について

②生活科学系コンソーシアムとの連携について

③その他

(11) 農学委員会 農学分科会(第3回)(5月8日)

①「日本の展望」への対応について ②当面の検討事項について ③その他

(12) 健康・生活科学委員会 子どもの健康分科会(第4回)(5月8日)

①第21期の提言について ②その他

(13) 臨床医学委員会、健康・生活科学委員会合同 生活習慣病対策分科会
(第2回)(5月8日)

①第1回分科会での討議の深化 ②第21期の活動方針の決定 ③その他

- (14) 心理学・教育学委員会、臨床医学委員会、健康・生活科学委員会、
環境学委員会、土木工学・建築学委員会合同 子どもの成育環境分科会
(第5回) (5月12日)

- ①小委員会からの報告
- ②各委員からみた現状と課題等についての報告 (継続)
- ③提言の方向性への意見交換 ④執筆分担 ⑤その他

- (15) 基礎生物学委員会・応用生物学委員会合同 生態科学分科会
(第2回) (5月12日)

- ①この間の学術会議の状況報告 (鷺谷会員)
- ②COP10に向けた学術分野の取り組み (環境省からのヒアリング)
- ③次期の学習指導要領における生態・進化の扱い (嶋田委員)
- ④大学における生態・自然史研究施設の現状に関するアンケート調査の準備
- ⑤その他

- (16) 基礎医学委員会 ICLAS分科会 (第1回) (5月13日)

- ①委員長、副委員長、幹事の選出 ②分科会活動方針について
- ③2009年ICLAS理事会への対応 ④その他

- (17) 基礎医学委員会、臨床医学委員会合同 医学教育分科会
(第3回) (5月13日)

- ①各委員による現状、問題点等についての報告 ②その他

- (18) 健康・生活科学委員会 (第5回) (5月19日)

- ①日本の展望に係る報告について (役割分担) ②連携会員の補充について
- ③各分科会からの報告について ④第21期の活動方針について ⑤その他

- (19) 薬学委員会 生物系薬学分科会 (第2回) (5月20日)

- ①シンポジウムについて ②その他

- (20) 農学委員会 地域総合農学分科会 (第3回) (5月25日)

- ①幹事の追加について ②次回開催予定のシンポジウムについて
- ③分科会報告、提言の取りまとめについて ④その他

第三部担当

- (1) 総合工学委員会・機械工学委員会合同 フロンティア人工物分科会
(第1回) (4月17日)

- ①役員の選出 ②第20期の活動の報告 ③第21期の活動計画 ④その他

- (2) 環境学委員会 環境思想・環境教育分科会 (第2回) (4月17日)
 ①「環境学の役割と環境思想・環境教育」 ②「環境教育の今とこれから」
 ③第21期のすすめかた ④その他
- (3) 総合工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 WFEO分科会
 (第3回) (4月21日)
 ①2011WECにおける日本の貢献について
 ②2015WEC日本招致について ③その他
- (4) 情報学委員会 ユビキタス空間情報社会基盤分科会 (第3回) (4月22日)
 ①シンポジウムについて ②その他
- (5) 化学委員会 IUPAC分科会 (第2回) (4月23～24日)
 ①IUPAC Vice President 候補者の推薦について
 ②その他
- (6) 物理学委員会 物性物理学・一般物理学分科会 (第2回) (4月27日)
 ①報告事項 ②今後の分科会の活動について ③その他
- (7) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会 (第3回) (4月27日)
 ①分野別日本の展望に盛り込むべき内容、具体例について
 ②社会貢献WGの活動と「高大接続テスト」とのかかわり ③その他
- (8) 物理学委員会 素粒子物理学・原子核物理学分科会 (第2回) (4月28日)
 ①物理学委員会報告 (第4期科学技術基本計画、日本の展望、宇宙基本法に関する要望書) ②将来計画シンポジウム (6月1日) のプログラムについて
- (9) 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会 (第2回) (4月28日)
 ①総会報告 ②日本の展望について ③今後の活動方針 ④その他
- (10) 電気電子工学委員会 デバイス・電子機器工学分科会 (第1回) (4月30日)
 ①分科会役員の選出 ②分科会の進め方 ③日本の展望について ④その他
- (11) 物理学委員会 IAU分科会 (第4回)、物理学委員会 天文学・宇宙物理学分科会 (第4回) 合同分科会 (5月1日)
 ①報告
 ②議題
 1) 長期計画報告取りまとめ
 取り上げるプロジェクト選定について

2) 日本の展望について

③その他

(12) 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM分科会

(第1回) (5月1日)

①役員の選出 ②第57回理論応用力学講演会報告

③第58回理論応用力学講演会について

④第59回理論応用力学講演会幹事学会について ⑤委員の推薦について

⑥分科会活動について ⑦その他

(13) 化学委員会 化学企画分科会 (第2回) (5月8日)

①IUPAC副会長候補推薦について ②「日本の展望」について

③各分科会からの現状について ④その他

(14) 環境学委員会 環境政策・環境計画分科会 (第2回) (5月8日)

①報告『科学的情報基盤の共有に基づいた、「人・もの・資源・文化」の循環を基本とする環境政策をめざして』(案) について

②「日本の展望」への提案について ③その他

(15) 土木工学・建築学委員会 景観と文化分科会 (第3回) (5月11日)

①提言でとりあげる内容について ②話題提供 (岩村先生・藤盛先生)

③その他

(16) 環境学委員会 環境科学分科会 (第1回) (5月12日)

①委員長、副委員長、幹事の選出 ②日本の展望委員会への提言のまとめ

③科学研究費分類細目などの変更について ④その他

(17) 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会 (第3回) (5月15日)

①「日本の展望」について ②公開シンポジウムについて ③その他

(18) 地球惑星科学委員会 IMA分科会 (第1回) (5月17日)

①役員の選出 ②IMA分科会の活動内容について

③IMA分科会の特任連携会員の候補者の推薦について

④今年度の分科会の活動について ⑤その他

(19) 情報学委員会 ユビキタス空間情報社会基盤分科会 (第4回) (5月20日)

①ユビキタス空間情報社会基盤の構築へ向けての取り組み

1) 住居表示に関する法律についての紹介

2) 地籍等各種基準点の整備についての紹介

②国土交通省との話し合いの進め方について ③その他

- (20) 総合工学委員会 工学基盤における知の統合分科会 (第3回) (5月22日)
- ①「知の統合体系化小委員会」からの報告 (川村委員)
 - ②「知の統合推進小委員会」からの報告 (原委員)
 - ③「IRT (Information Robot Technology) による人間の形態・機能・行動特性の計測と理解に基づく人間支援科学技術の創成」に関する報告 (小泉委員・川村委員)
 - ④「日本の展望 (知の統合関係)」について (矢川委員) ⑤その他
- (21) 地球惑星科学委員会 地球惑星科学企画分科会 (第6回) (5月22日)
- ①各分科会活動報告
 - ②日本の展望の進行状況と第四期科学技術基本計画へのインプット
 - ③地球惑星科学委員会について ④その他
- (22) 地球惑星科学委員会 (第3回) (5月22日)
- ①日本学術会議 第3部活動報告 ②地球惑星科学分科会活動報告
 - ③各分科会活動報告 ④日本の展望について
 - ⑤地球惑星科学系大学・大学院について ⑥日本地球惑星科学連合について
 - ⑦今後の活動について ⑧その他
- (23) 土木工学・建築学委員会 地球環境の変化に伴う水害・土砂災害への対応分科会 (第2回) (5月25日)
- ①今後の分科会の活動方針について ②その他
- (24) 土木工学・建築学委員会 大規模地震災害総合対策分科会 (第3回) (5月26日)
- ①増子宏特別委員より文部科学省の取組について講演
 - ②分科会委員からの意見・提案 ③日本学術会議公開講演会の紹介
 - ④小委員会 (またはワーキング) の設置と委員構成 ⑤その他
- (25) 地球惑星科学委員会 社会貢献分科会 (第4回) (5月27日)
- ①日本の展望の進行状況と内容の検討 ②基礎学力認定試験について
 - ③その他

5 課題別委員会の開催とその議題

- (1) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会 (第2回) (4月16日)
- ①今後の進め方について ②その他
- (2) 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討

分科会（第3回）・日本の展望委員会 知の創造分科会（第1回）合同分科会
（4月17日）

- ①委員長、副委員長及び幹事の選出について（知の創造分科会）
- ②今後の検討の方向性について ③その他

（3）大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 拡大役員会
（第7回）（4月24日）

- ①今後の進め方について ②その他

（4）大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
（第3回）（4月30日）

- ①有識者からのヒアリングについて ②今後の検討の方向性について
- ③その他

（5）大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討
分科会（第4回）・日本の展望委員会 知の創造分科会（第2回）合同分科会
（5月18日）

- ①今後の検討の方向性について ②その他

（6）大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 教養教育・共通教育検討
分科会（第5回）・日本の展望委員会 知の創造分科会（第3回）合同分科会
（5月22日）

- ①今後の検討の方向性について ②その他

（7）大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 質保証枠組み検討分科会
（第4回）（5月27日）

- ①有識者からのヒアリングについて ②今後の検討の方向性について
- ③その他

6 サイエンスカフェの開催

（1）4月17日（金） 18：30～20：30

場 所：サロンド富山房 Folio

テーマ：脳についてのうわさ、うそ？ほんと？

講 師：金澤 一郎（宮内庁皇室医務主管 日本学術会議会長）

室伏 きみ子（お茶の水女子大学教授 日本学術会議第二部会員）

（2）4月24日（金） 19：00～20：30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：周期表は未来物質への出発点：「一家に1枚周期表」の楽しみ方

講 師：玉尾 皓平（理化学研究所基幹研究所所長 日本学術会議第三部会員）

松島 淳一（日本科学未来館 科学コミュニケーター）

(3) 5月15日（金） 18:30～20:30

場 所：サロンド富山房 Folio

テーマ：世界一の稠密地震観測網で解ってきたこと

講 師：石田 瑞穂（海洋研究開発機構特任上席研究員）

室伏 きみ子（お茶の水女子大学教授 日本学術会議第二部会員）

(4) 5月17日（日） 14:00～15:00

場 所：愛知芸術文化センター10階 レストラン「ウルフギャング・パック」

テーマ：日本刀を科学する

講 師：石川 憲一（金沢工業大学学長・工学博士）

(5) 5月22日（金） 19:00～20:30

場 所：文部科学省情報ひろばラウンジ

テーマ：万葉・江戸・現代の天の川

講 師：海部 宣男（放送大学教授 日本学術会議第三部会員）

佐藤 勝彦（明星大学理工学部物理学科客員教授

東京大学数物連携宇宙研究機構特任教授

日本学術会議第三部会員）

(6) 5月23日（土） 15:30～17:30

場 所：三鷹ネットワーク大学

テーマ：わたしたちは地球からどんなことを学んできたか

講 師：北原 和夫（国際基督教大学教授 日本学術会議連携会員）

渡辺 政隆（（独）科学技術振興機構 科学コミュニケーション

スーパーバイザー 日本学術会議連携会員）

小川 義和（国立科学博物館学習企画・調整課長）

斉藤 靖二（生命と生命の星・地球博物館館長 日本学術会議連携会員）

7 総合科学技術会議報告

1. 本会議

（第80回）

4月21日

(1) 諮問第7号「特定胚の取扱いに関する指針の改正について」及び諮問第8号「ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針の改正について」に対する答申

(2) 国家的に重要な研究開発の評価

(3) 将来の成長に向けた科学技術政策上の重要課題について

(4) 意見交換（日本がリードする21世紀の革新素材－低炭素社会に貢献する

炭素繊維一)

2. 専門調査会

○知的財産戦略専門調査会（第44回） 4月22日

- (1) 第3期科学技術基本計画の進捗状況と課題
- (2) 我が国の科学技術政策推進のための知的財産システムのあり方と具体的施策
- (3) リサーチツール特許等統合データベースについて（報告）

○生命倫理専門調査会（第55回） 5月19日

- (1) 「ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針」の改正案についての報告
- (2) 「生殖補助医療研究目的でのヒト受精胚の作成・利用の在り方についての報告
- (3) その他

○基本政策推進専門調査会 分野別推進総合PT エネルギー分野PT
(第12回) 4月22日

- (1) 第3期科学技術基本計画における中間フォローアップについて
 - ・現状における課題や問題点と対応方針について
 - ・分野別推進戦略の中間フォローアップについて
- (2) 環境エネルギー技術革新計画のフォローアップについて
- (3) その他

○分野別推進総合PT 情報通信PT（第11回） 4月21日

- (1) 第3期基本計画 分野別推進戦略 中間フォローアップ(案) について

○分野別推進総合PT 環境PT（第9回） 4月24日

- (1) 第3期科学技術基本計画における「分野別推進戦略」の中間フォローアップのとりまとめについて
 - ・環境分野の現状分析と対応方針について
 - ・分野別推進戦略の中間フォローアップについて

○分野別推進総合PT ナノテクノロジー・材料PT（第11回） 5月8日

- (1) ナノテクノロジー・材料PTタスクフォース取りまとめ
- (2) ナノテクノロジー・材料PT中間フォローアップ取りまとめ
- (3) 科学技術連携施策群 ナノバイオテクノロジー連携群とりまとめ
- (4) 府省連携プロジェクト「革新的構造材料を用いた新構造システム建築物の研究開発」終了報告
- (5) その他

○分野別推進総合PT フロンティアPT (第9回) 5月11日

- (1) 第3期科学技術基本計画「分野別推進戦略」の中間フォローアップについて
- ・フロンティア分野の現状分析と今後の対応方針に関する取り纏め (案)
 - ・フロンティア分野の中間フォローアップ (案)
- (2) その他

○気候変動適応型社会の実現に向けた技術開発の方向性立案のための
タスクフォース (第2回) 4月20日

- (1) 想定されるシナリオと目指すべき社会像について (有識者からのヒアリング)
- ・河宮 未知生 委員
「地球環境変化予測モデルの現状と課題」
 - ・増井 利彦 (独) 国立環境研究所 社会環境システム研究領域
統合評価研究室室長
「将来の社会像 (資源・人口・経済問題の観点から)」
- (2) 緩和策と適応策の「ベストミックス社会」実現に向けた国づくり
(事務局案についての自由討論)

3. 総合科学技術会議有識者議員会合

・	4月16日	*会長出席
・	4月23日	*会長欠席
・	4月30日	*会長出席
・	5月14日	*会長出席
・	5月21日	*会長欠席
・	5月28日	*会長出席予定

8 慶弔

○ご逝去

大塚 和夫 (おおつかかずお) 59歳 4月29日 第20～21期連携会員
東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所所長

熊田 禎宣 (くまだよしのぶ) 69歳 5月13日 第18期、第19期会員
千葉商科大学政策情報学部教授 (東京工業大学名誉教授)

◇ 紫綬褒章

村上 正紀	(学校法人立命館副総長)	第20期連携会員
佐藤 英明	(東北大学教授)	第20期連携会員
岡野 光夫	(東京女子医科大学教授)	第20期会員
永井 良三	(東京大学教授)	第20期会員
安田 浩	(東京大学名誉教授)	第17～19期研究連絡委員会委員
齋藤 軍治	(名城大学教授)	第21期連携会員

◇ 瑞宝章

○ 瑞宝大綬章

丹保 憲仁 (元北海道大学長) 第17、18期会員、第20期連携会員

○ 瑞宝重光章

赤岩 英夫	(元群馬大学長)	第17～19期会員
伊藤 貞夫	(東京大学名誉教授)	第20期連携会員
久城 育夫	(東京大学名誉教授)	第20期連携会員
丹羽 雅子	(元奈良女子大学長)	第18期会員
別府 輝彦	(東京大学名誉教授)	第16、17期研究連絡委員会委員

○ 瑞宝中綬章

朝倉 利光	(北海道大学名誉教授)	第16期研究連絡委員会委員
大貫 仁人	(元森林総合研究所長)	第16、17期研究連絡委員会委員
香西 茂	(京都大学名誉教授)	第15期、第16期会員
末尾 至行	(関西大学名誉教授)	第16期会員
杉本 悦郎	(名古屋大学名誉教授)	第16期研究連絡委員会委員
高木 紳元	(元高野山大学長)	第15期、第17期会員
辻井 重男	(東京工業大学名誉教授)	第19期会員、第20期連携会員
当麻 喜弘	(東京工業大学名誉教授)	第17期連携会員
中田 易直	(中央大学名誉教授)	第16期会員
西川 禎一	(元大阪工業大学長)	第16期会員
萩原 宏	(京都大学名誉教授)	第16期会員
日向 康吉	(東北大学名誉教授)	第16、17期研究連絡委員会委員
三瀬 勝利	(元国立医薬品食品衛生研究所副所長)	第17、18期研究連絡 委員会委員
山岸 米二郎	(元気象研究所長)	第16期研究連絡委員会委員
米本 恭三	(元都立保健科学大学長)	第17期研究連絡委員会委員

審 議 事 項

		頁
Ⅱ 審議事項		
1 提言等	提案3 提言「経済危機に立ち向かう包摂的社会政策のために」	1
2 規則等	提案4 日本学術会議細則の一部改正（総会提案）	2
	提案5 分野別委員会運営要綱の一部改正	4
3 団体の指定	提案6 日本学術会議協力学術研究団体の指定	5
4 国際会議関係	提案7 平成21年度代表派遣（7月～9月）	7
5 シンポジウム等	提案8 「第58回理論応用力学講演会」	9
	提案9 公開シンポジウム「芸術とインタラクティビティ」	11
	提案10 公開シンポジウム「文化財と史料保存問題を考える」	12
	提案11 公開シンポジウム「こどもの貧困とセーフティ・ネット」	13
	提案12 公開シンポジウム「愛媛から世界へ 農林水産学と社会貢献」	14
	提案13 「英国科学実験講座」開催20周年記念シンポジウム	16
	提案14 シンポジウム「ものづくりの持続的なイノベーションへむけた 基盤科学技術提言」	18
	提案15 市民公開講座「見るよろこび、聞くよろこび、AVD (Auditory Visual Disease) の克服に向けて—2つの目、2つの耳—」	20
	提案16 シンポジウム「平成21年度女子中高生夏の学校2009～科学・技 術者のたまごたちへ～」	21
	提案17 公開シンポジウム「海と陸と人と」	28
	提案18 日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会の開催	30
6 後援	提案19 国内会議	31
	提案20 国際会議	32
Ⅲ その他		

3	
幹事会	78

提 案

提言「経済危機に立ち向かう包摂的社会政策のために」

- 1 提 案 者 社会学委員会委員長、経済学委員会委員長
- 2 議 案 標記について下記のとおり承認すること。
- 3 提案理由 第20期以来、社会学委員会経済学委員会合同で包摂的社会政策に関する多角的検討分科会を設置し、現下の厳しい雇用並びに生活危機の情勢等について、これまで審議してきた結果を別添のとおりとりまとめたので、関係機関に対する提言として、これを外部に公表したい。

記

日本学術会議会則第二条第三号の「提言」として取り扱うこと

4	
幹事会	78

提 案（総会）

日本学術会議細則の一部改正について

1. 提 案 者 応用生物学委員会委員長
2. 議 案 標記について、別紙案のとおり決定すること。
3. 提案理由

現在、応用生物学委員会のもとには、生態科学分科会、自然人類学分科会、生物工学分科会、自然史・古生物学分科会、行動生物学分科会およびバイオインフォマティクス分科会が設置されている。これらがカバーする学術の範囲は、ゲノム・個体から地球生態系にいたる多様な生物学的階層における生物現象および生物と環境の間の複雑で動的な関係を分析・研究の対象とし、基礎から応用にわたるマクロ生物学領域を広く含む統合生物学（Integrated Biology）である。これらの学術領域は、実験のみならず野外での観察・採集・測定・調査で得られたデータ解析や理論構築など、多様な研究手法を統合的に用い、生物としての人間（ヒト）を含む歴史性を持ち複雑で動的な生物的自然に関する科学的理解を深めることに貢献している。

応用生物学委員会という名称は、一般には、応用生物学が基礎生物学に対して、農学、医学、歯学、薬学なども含む、生物科学における広範な応用分野を指すものであることを考えると適切なものとはいえず、この委員会がカバーしている学術領域をあらわす名称としては統合生物学が最適であると考えられる。

以上の理由をもって、分野別委員会の名称を「応用生物学委員会」から「統合生物学委員会」に変更することを提案するものである。

日本学術会議細則（平成17年10月4日日本学術会議第146回総会決定）の一部を次のように改正する。次表により、改正前欄の掲げる規定をこれに対応する改正後の欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改める。

改 正 後			改 正 前		
別表第3（第10条関係）			別表第3（第10条関係）		
委員会名	委員会名	委員会名	委員会名	委員会名	委員会名
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)
	統合生物学委員会 (略)			応用生物学委員会 (略)	

附 則（平成21年10月 日日本学術会議第156回総会決定）
この決定は、決定の日から施行する。

(本提案は、日本学術会議細則の一部改正が
総会可決後に施行となる提案)

5	
幹事会	7 8

提 案

分野別委員会運営要綱の一部改正について

1. 提 案 者 応用生物学委員会委員長
2. 議 案 標記について、分野別委員会の名称を「応用生物学委員会」から「統合生物学委員会」に変更する日本学術会議細則の改正が総会で決定された場合において、分野別委員会運営要綱（平成17年10月4日日本学術会議第1回幹事会決定）中、「応用生物学委員会」を「統合生物学委員会」に改めることとし、分野別委員会の名称を「応用生物学委員会」から「統合生物学委員会」に変更する日本学術会議細則の改正の施行の日から施行する。
3. 提案理由 委員会の名称の変更に伴い、運営要綱を一部改正する必要があるため。
4. 備 考 本提案は、提案4の日本学術会議細則の一部改正（分野別委員会の名称変更）が総会決定された場合において必要となる規程の改正をあらかじめ総会前に決定し、日本学術会議細則の一部改正（分野別委員会の名称変更）が総会決定された際にあわせて施行するもの。

6	
幹事会	7 8

提 案

日本学術会議協力学術研究団体の指定

1. 提 案 者 会 長
2. 議 案 日本学術会議協力学術研究団体の審査結果を回答すること
3. 提 案 理 由 日本学術会議協力学術研究団体への新規申し込みのあった団体について、科学者委員会の意見に基づき、下記のとおり回答すること
としたい。

記

- 指定することを適当と認める。

(申請団体名)

北陸都市史学会
 観光まちづくり学会
 日本脳神経外科救急学会
 日本末病システム学会
 日本ストレスマネジメント学会

団体の概要

- ・ 北陸都市史学会
北陸地方を中心とする都市史及び都市問題、またこれに関連する諸問題の自由な研究とその普及を行うことを目的としている。
- ・ 観光まちづくり学会
国際観光対応のための観光論や観光の現象分析といった従来の観光研究の視点を、専門領域にとらわれることなく、個性的で質の高い総合的な環境のあり方について考察し、時代の要請に応えることを目的としている。
- ・ 日本脳神経外科救急学会
脳神経外科救急に関する研究を推進し、また相互の交流を深め、医学・医療及び社会的に貢献することを目的としている。
- ・ 日本末病システム学会
少子高齢社会の出現に伴い、直面する医療問題に対処すべく、医学と医療を取り巻く社会や経済との相互交流を図り、限りある医療財源を有効活用するシステムを提言するとともに、末病（病気としての症状は現れていないが、将来的に大きな疾病を招来する可能性のある状態）医学、医療の啓蒙に努め、もって国民医療福祉の維持向上を目的としている。
- ・ 日本ストレスマネジメント学会
ストレスマネジメント教育を中核とし、予防からケアまでを含むストレスマネジメントの発展と深化、社会に対するさらなる貢献を目的としている。

7	
幹事会	78

提 案

平成21年度代表派遣について（平成21年7月～9月分）

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 標記について、別紙のとおり実施すること。
- 3 提案理由 「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第19条の規定に基づくものである。

<参考>「日本学術会議の行う国際学術交流事業の実施に関する内規」（抄）

（派遣者の選考）

- 第19条 会長及び関係委員長は、幹事会で承認された派遣実施計画に基づき、代表を派遣すべき会議等（以下「代表派遣会議」という。）のそれぞれの内容等に応じて、学術会議会員（以下「会員」という。）の中から適任者を選考し、様式第7に定める代表派遣会議候補者推薦書により派遣候補者を会長に推薦するものとする。ただし、学術会議連携会員（以下「連携会員」という。）の中に適任者があると認められる場合は、その者を候補者として推薦することができる。
- 2 会長は、前項の規定により推薦された派遣候補者について、原則として代表派遣会議が開始される日の1か月前までに開かれる幹事会の議決を経た上、学術会議の代表として派遣される者（以下「派遣者」という。）として派遣するものとする。

番号	国際会議等	会期	開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
1	大気科学・海洋物理科学・雪氷圏科学合同総会	7月19日 ～ 7月29日	モントリオール カナダ	若土 正曉 特任連携会員 北海道大学	IUGG分科会 特別派遣
2	国際人類学・民族会議	7月27日 ～ 7月31日	昆明 中国	山本 真由 第一部会員 法政大学経済学部	地域研究委員会 特別派遣
3	第23回国際科学史会議	7月28日 ～ 8月2日	ブタペスト ハンガリー	矢島 道子 特任連携会員 特定非営利活動法人 地質情報整備活用機構	IUHPS分科会 第1区分
4	第23回国際科学史会議	7月28日 ～ 8月2日	ブタペスト ハンガリー	木本 忠昭 連携会員 東京工業大学	IUHPS分科会 第1区分
5	第23回国際科学史会議	7月28日 ～ 8月2日	ブタペスト ハンガリー	橋本 毅彦 特任連携会員 東京大学	IUHPS分科会 第1区分
6	国際結晶学連合(IUCr)理事会	7月31日 ～ 8月2日	トロント カナダ	大橋 裕二 連携会員 いばらぎ量子ビーム研究センター	IUCr分科会 第2区分
7	第45回IUPAC総会/第42回IUPAC会議	7月31日 ～ 8月6日	グラスゴー 英国	長谷川 実貴 特任連携会員 青山学院大学理工学部	IUPAC分科会 第1区分
8	国際天文学連合(IAU)第27回総会	8月3日 ～ 8月14日	リオデジャネイロ ブラジル	坂部 宣男 第三部会員 放送大学	IAU分科会 第1区分
9	国際天文学連合(IAU)第27回総会	8月3日 ～ 8月14日	リオデジャネイロ ブラジル	岡村 定矩 連携会員 東京大学理事・副学長	IAU分科会 第1区分
10	国際天文学連合(IAU)第27回総会	8月3日 ～ 8月14日	リオデジャネイロ ブラジル	福島 登志夫 連携会員 国立天文台副台長	IAU分科会 第1区分
11	第15回世界経済史会議	8月7日 ～ 8月14日	エトワレ オランダ	斎藤 修 連携会員 一橋大学経済研究所	IEHA分科会 第1区分
12	アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)第18回隔年総会	8月27日 ～ 8月29日	バンコク タイ	小谷 庄之 第一部会員 東京都立大学名誉教授	AASSREC/IFSSO分科会 第1区分
13	アジア社会科学研究協議会連盟(AASSREC)第18回隔年総会	8月27日 ～ 8月29日	バンコク タイ	岡本 耕平 連携会員 名古屋大学	AASSREC/IFSSO分科会 第1区分
14	国際農業工学会(CIGR)2009年幹部会及び関連会議	8月30日 ～ 9月2日	ボツダム ドイツ	前川 孝昭 連携会員 筑波大学名誉教授	CIGR分科会 第2区分
15	国際農業工学会(CIGR)2009年幹部会及び関連会議	8月30日 ～ 9月2日	ボツダム ドイツ	佐藤 洋平 連携会員 (独)農業環境技術研究所理事	CIGR分科会 第2区分
16	第8回IAHS科学会議・第37回IAH学術大会共同会議	9月2日 ～ 9月6日	ハイデラバード インド	嶋田 純 特任連携会員 熊本大学大学院自然科学研究科	IUGS分科会 特別派遣

8	
幹事会	78

提 案

第 58 回理論応用力学講演会の開催について

1. 提案者 機械工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会
2. 日 時 平成 21 年 6 月 9 日 (火) ～6 月 11 日 (木)
3. 場 所 日本学術会議講堂
4. 次 第

I. 挨拶

6 月 9 日 (火) 13:00～13:15

日本学術会議 機械工学委員会・土木工学・建築学委員会合同 IUTAM 分科会委員長
小林敏雄

第 58 回理論応用力学講演会運営委員長 田村 武

II. 特別企画

特別講演

6 月 9 日 (火) 13:15～14:15

PL1 高速多重極境界要素法－弾性体からメタマテリアルまで
講師 西村直志 (京大)

6 月 10 日 (水) 13:00～14:00

PL2 竜巻と塵旋風－大気の激しい渦の理解の現状と課題
講師 新野 宏 (東大海洋研)

6 月 11 日 (木) 13:00～14:00

PL3 カオス現象の発見とその影響
講師 上田皖亮 (京大)

パネルディスカッション

6月11日(木) 9:30~12:00

PD1 北極海航路

モデレータ 末岡英利(東大), 山口 一(東大)

パネリスト 山口 一(東大), 松沢孝俊(海上技術安全研), 鈴木克幸(東大), 末岡英利(東大), 安部大介(ウェザーニューズ), 田中康夫(日本郵船), 佐藤宏一(三菱重工), 原田 晋(日本海事協会)

6月11日(木) 9:30~12:00

PD2 複雑流体のレオロジー

モデレータ 蝶野成臣(高知工科大)

パネリスト 山本剛宏(阪大), 増渕雄一(京大), 伊崎健晴(三井化学), 梶原稔尚(九大), 滝本淳一(山形大)

6月9日(火) 14:30~17:00

PD3 計算力学における情報技術の利用最前線

モデレータ 檜山和男(中央大), 奥田洋司(東大)

パネリスト

III. 研究発表

オーガナイズドセッション(合計 229 件) / オーガナイザ

<参加申込方法>

当日、直接会場においで下さい。

9	
幹事会	78

提 案

公開シンポジウム「芸術とインタラクティビティ」の開催について

- 1 提案者 哲学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 哲学委員会芸術と文化環境分科会
芸術学関連学会連合
2. 共 催 京都国立近代美術館
3. 日 時 平成21年 6月13日（土曜日）13:30～17:00
4. 場 所 京都国立近代美術館一階講堂（京都市左京区岡崎円勝寺町）
5. 分科会の開催 同会場において分科会を開催予定

6. 次 第

開催趣旨

1980年代からのコンピュータゲーム、1990年代以後のインターネットなど、近年メディアと芸術を巡る環境は「インタラクティブ」「相互作用」的な性格を強めている。
 インタラクティビティとは、一般に二つ以上のものが相互に作用しあうことをいい、とくに近年では作品、制作物に関して、観客（ユーザー）が対象物に働きかけることで対象物（内容、処理）が変わるような場合に、インタラクティブであると言われる。
 本シンポジウムでは「インタラクティビティ」について、学問的なものと実践的なもの、古典的なものと先端的なものとのあいだの、文字通り「双方向的な」議論をめざす。

開会の辞 佐々木健一（芸術学関連学会連合会長、日本大学文理学部教授、日本学術会議連携会員）
 趣旨説明＋司会（シンポジウムオーガナイザー）

為ヶ谷秀一（日本映像学会、女子美術大学大学院美術研究科・教授）、

兼子正勝（日本映像学会、電気通信大学電気通信学部・教授）

講演 原島 博（元東京大学教授、女子美術大学客員教授）「情報技術は文化を目指す」
 パネルディスカッション（パネリスト・発表題目）

山口 良臣（意匠学会）「装置あるいは仕掛けとしての芸術作品」

貫 成人（舞踊学会）「舞踊とインタラクティビティ」

仲町 啓子（美術史学会）「絵画の制作と受容ー近代以前の源氏物語絵を中心にー」

吉岡 洋（美学会）「インタラクションと時間」

閉会の辞

岩城見一（日本学術会議「哲学委員会芸術と文化環境分科会」委員長、京都国立近代美術館・館長）

【問い合わせ】

電気通信大学兼子研究室 phone:042-443-5536 mail:kaneko@hc.uec.ac.jp

10	
幹事会	78

提 案

公開シンポジウム「文化財と史料保存問題を考える」の開催について

- 1 提案者 史学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 史学委員会
日本歴史学協会 史料保存利用特別委員会・文化財保護特別委員会
2. 日 時 平成21年 6月27日（土曜日）13：30～17：30
3. 場 所 学習院大学南3号館201教室（豊島区目白1-5-1）

4. 次 第

開催趣旨

文化財や史料をどのように保存し、公開していくかという問題は歴史学や考古学にとって、これまでも死活の重要性をもつ問題であった。近年、特に公文書の保存、公開の問題が焦点になってきており、公文書法の制定も日程に上っている。このような状況に鑑み、広く歴史研究者、考古学研究者に呼びかけて、問題の所在について議論を深めたいと考え、このシンポジウムを企画した。

報告者 森田 晃一（地方史研究協議会、日本民族学会、日本史研究会、岐阜大学留学生センター教授）「岐阜県歴史資料館の現状と課題」（仮）
谷口 榮 （葛飾区郷土と天文の博物館（学芸員））「文化財の保護と博物館・資料館」

【問い合わせ】

高埜 利彦（学習院大学文学部教授）

19810924@gakushuin.ac.jp

03-3986-0221

11	
幹事会	78

提 案

公開シンポジウム「こどもの貧困とセーフティ・ネット」の開催について

- 1 提案者 法学委員会委員長
- 2 議 案 標記シンポジウムを下記の通り開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議法学委員会「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会
名古屋経営短期大学
2. 日 時 平成21年6月28日(日) 13:30～16:30
3. 場 所 名古屋産業大学・名古屋経営短期大学「文化センター」3階ホール
〒488-8711 愛知県尾張旭市新居町山の田 3255-5
4. 開催趣旨
「不平等・格差社会とセーフティ・ネット」分科会の議論を市民に公開し、セーフティネット構築のために、市民とともに語り合う。今回は、こどもの貧困を中心に議論する。
5. 次 第
開会あいさつ：井上英夫（金沢大学教授、日本学術会議連携会員）
シンポジウム（13:30～16:30）
 - 1) 中田 照子（名古屋経営短期大学子ども学科教授）
 - 2) 後藤 弘子（千葉大学大学院専門法務研究科教授、日本学術会議連携会員）
 - 3) 杉本貴代栄（金城学院大学教授）
 - 4) 市川須美子（独協大学法学部教授、日本学術会議連携会員）

閉会あいさつ：浅倉むつ子（早稲田大学教授、日本学術会議会員）

【参加申込方法・お問い合わせ先】

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

名古屋経営短期大学 担当 古橋エツ子（日本学術会議連携会員）

E-mail: furuhashi@nagoya-su.ac.jp Fax: 0561-52-0541

*定員 200 名となり次第、締め切りとさせていただきます。

1 2	
幹事会	7 8

提 案

公開シンポジウム「愛媛から世界へ 農林水産学と社会貢献」の開催について

1. 提案者 日本学術会議農学委員会委員長・食料科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会
愛媛大学、愛媛大学農学部
2. 後 援：愛媛県、松山市、農林水産省愛媛農政事務所、JA愛媛中央会
(予定) 愛媛県森林組合連合会、愛媛県漁業協同組合連合会、
NHK松山放送局、あいテレビ、愛媛朝日放送、テレビ愛媛
南海放送、愛媛新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社
産経新聞社
3. 日 時：平成21年7月18日(土) 13:30～16:30
4. 場 所：愛媛大学城北キャンパス・グリーンホール
(愛媛県松山市文京町3)
5. 開催趣旨：
持続可能な社会を構築するためには、今後、世界規模の食料危機、生存圏
環境の悪化など多様な問題を解決しなければならない。食料と環境に関する
科学と科学技術に対しても、ローカルなレベルからグローバルなレベルまで
の様々な局面で大きな貢献が求められている。
本シンポジウムでは、「食料」・「資源」・「環境」・「地域」に関わる
緊急課題を総合的、かつ、体系的に研究を行っている愛媛大学農学部の先端
的な研究課題の中から3つの課題を取り上げて議論し、これからの農林水産
学の社会貢献のあり方を検討したい。

6. プログラム：

総合司会：若林 良和（愛媛大学南予水産研究センター副センター長）

13:30～13:45 開会挨拶

柳澤 康信（愛媛大学長）

唐木 英明（日本学術会議副会長、東京大学名誉教授）

13:45～16:20 （講演 30 分、質疑応答 15 分）

第1セッション：農学分野

座長：野並 浩（日本学術会議連携会員、愛媛大学農学部教授）

太陽光利用型植物工場の知能化のための **Speaking Plant Approach** 技術

仁科 弘重（愛媛大学農学部教授）

コメンテータ：野口 伸（日本学術会議会員、北海道大学大学院農学研究院教授）

第2セッション：林学分野

座長：橘 燦郎（日本学術会議連携会員、愛媛大学農学部教授）

航空レーザー測距法による大面積森林資源計測

末田 達彦（愛媛大学農学部教授）

コメンテータ：飯塚 堯介（日本学術会議会員、東京家政大学家政学部教授）

休憩（10 分間）

第3セッション：水産学分野

座長：山内 皓平

（日本学術会議会員 食料科学委員会委員長、
愛媛大学南予水産研究センター長）

地方大学発の地域貢献の新しい形：愛媛大学南予水産研究センターの取り組み

三浦 猛（愛媛大学南予水産研究センター教授）

コメンテータ：進士 五十八（日本学術会議会員、東京農業大学地域環境科学部教授）

シンポジウムを振り返って

真木 太一

（日本学術会議会員 農学委員会委員長、
筑波大学北アフリカ研究センター客員教授）

16:20～16:30 閉会挨拶

林 和男（愛媛大学農学部長）

「愛媛から世界へ 農林水産学と社会貢献」シンポジウム実行委員会

委員長 山内 皓平（愛媛大学南予水産研究センター長、日本学術会議会員）

連絡先：〒790-8577 愛媛県松山市文京町3 社会連携推進機構
南予水産研究センター

1 3	
幹事会	7 8

「英国科学実験講座」開催 20 周年記念シンポジウムの開催について

提 案

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること

1. 主 催 独立行政法人科学技術振興機構 ブリティッシュ・カウンシル
日本学術会議（科学と社会委員会 科学力増進分科会）[予定]
読売新聞社
2. 後 援 なし
3. 日 時 平成 21 年 7 月 20 日（月・祝） 13：30～16：30
4. 場 所 一橋記念講堂（学術総合センター内）（千代田区神田一橋 2 1 2）
5. 参加費 無料

6. 次 第

開催趣旨

英国王立研究所（ロイヤル・インスティテューション）が 1826 年から開催しているクリスマス・レクチャーは、毎年クリスマスの時期に開かれる、子ども向けの連続講演会である。日本では「英国科学実験講座」との名称の下、半年遅れの 7、8 月に 2 日間連続で 2 カ所において開催されている。2009 年はその 20 回目にあたる。

この「英国科学実験講座」開催 20 周年を記念して、英国から王立研究所所長でオックスフォード大学教授のスーザン・グリーンフィールド卿を招聘し、ブリティッシュ・カウンシル、独立行政法人科学技術振興機構、読売新聞社、日本学術会議（予定）との共同主催で記念シンポジウムを開催する。

本シンポジウムは、クリスマスレクチャーのほか、金曜講話などを長年にわたって実施し、研究者を一流の科学コミュニケーターに育てあげてきた英国流のノウハウを学ぶと同時に、理工系を目指す高校生に科学技術に対するよりいっそうの興味を抱かせる絶好の機会となるものと期待できる。

開会あいさつ：金澤一郎（日本学術会議会長）

ジェイソン・ジェイムズ（ブリティッシュ・カウンシル在日代表）

I 講 演（14：45～15：50）

- 1) スーザン・グリーンフィールド卿 （王立研究所所長）
- 2) 外村彰氏（日立製作所フェロー）
- 3) 市村禎二郎氏（東京工業大学大学院教授）

II 質問コーナー（15：50～16：30）

司会 山科直子（東京大学特任教授）

参加申込方法

参加ご希望の方は住所・氏名・年齢・職業を明記の上、6月14日までに、電子メールかファックスで下記までお申し込み下さい。(先着200名様、無料)

独立行政法人科学技術振興機構 科学ネットワーク部

TEL: (03) 5214-7625 FAX: (03) 5214-8088 E-mail: faraday@jst.go.jp

14	
幹事会	78

シンポジウム「ものづくりの持続的なイノベーションへむけた基盤科学技術提言」 の開催について

提 案

1. 提案者 材料工学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議 材料工学委員会
材料構造化コンバージング・テクノロジー分科会
2. 後 援 (現在交渉中)
3. 日 時 平成21年7月23日(木) 13:30～17:00
4. 場 所 日本学術会議 講堂 (東京都港区六本木 7-22-34)
5. 参加費 無 料
6. 概 要

<開催趣旨>

材料工学委員会 材料構造化コンバージング・テクノロジー分科会では、ものづくり基盤科学技術とこれらを創り出す科学技術システムのあり方を提言することとしました。ものづくり基盤科学技術は、破壊的なイノベーションを起こす新科学技術としてではなく、古くから存在する成熟した科学技術と見なされ、一層の強化施策に目が向かない傾向があります。しかし、ものづくり基盤科学技術は、我が国において既に世界をリードした数え切れない実績があり、一層の強化施策により将来に渡り引きつづき持続的にイノベーションを引き起こすことが大いに期待できます。また、我が国として取り組む環境に配慮した製品を実現する基本技術でもあります。我が国ものづくりの科学技術・産業の将来における相対的な国際競争力に黄色信号が付いたとも言われる状況に鑑み、ものづくり基盤科学技術のあり方に係る本質的な提言が必要です。その一貫として、本シンポジウムでは、広く一般からご意見をいただき、学術会議提言に反映させることにしました。

<プログラム>

13:00開始

開会あいさつ：馬越 佑吉（材料工学委員会委員長）

I 講演（ 13:30 ～14:50 ）

- 1) 豊田 政男（連携会員、（独）科学技術振興機構 プログラム主管）
- 2) 馬越 佑吉（会員、（独）物質・材料研究機構 理事）
- 3) 古川 勇二（会員、職業能力開発総合大学校 校長）

II 討論など（ 3:00 ～5:00 ）

パネル討論 上記3名および

桑原 輝隆（文部科学省 科学技術政策研究所 総務研究官）、
戸崎 泰之（連携会員、住友金属工業（株）副社長）、
中江 秀雄（早稲田大学 教授）、
塩谷 景一（大阪大学 招へい教授、文部科学省 科学技術政策研究所 客員研究官）

まとめと閉会あいさつ：豊田 政男

（材料構造化コンバージング・テクノロジー分科会委員長）

<参加申込方法>

E-mailもしくはFaxにて必要事項（氏名、所属、連絡先電話番号、E-mailアドレス）をご記入の上、以下の問い合わせ先担当宛、お申し込みください。

大阪大学大学院工学研究科 平田好則教授 E-mail: hirata@mapse.eng.osaka-u.ac.jp

*定員（150名）となり次第、締め切りとさせていただきます。

15	
幹事会	78

提 案

市民公開講座「見るよろこび、聞くよろこび、AVD(Auditory Visual Disease)の克服に向けて—2つの目、2つの耳—」の開催について

1. 提案者 臨床医学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催：日本学術会議臨床医学委員会感覚器分科会、
日本眼科学会、日本耳鼻咽喉科学会
2. 日 時：平成21年8月11日（火） 14:00～17:00
3. 場 所：日本学術会議 講堂
4. 開催趣旨：
視覚と聴覚のしくみと病気の新しい治療について、一般市民の教育と学習に貢献し、知識の普及をはかる。
5. プログラム
14:00～14:05 開会挨拶 八木聰明（日本医大、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授）
14:05～17:00
司会：石橋達朗（九州大、眼科学教授）、市川銀一郎（順天堂大名誉教授、耳鼻咽喉科学）
(1) 2つの目の不思議 大鹿哲郎（筑波大、眼科学教授）
(2) 2つの耳の不思議 加我君孝（東京医療センター・感覚器センター長）
(3) 目の新しい治療 坂本泰二（鹿児島大、眼科学教授）
(4) 耳の新しい治療 小林俊光（東北大、耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授）
(5) 質問コーナー

1 6	
幹事会	7 8

シンポジウム「平成21年度女子中高生夏の学校 2009～科学・技術者のたまごたちへ～」
の開催について

提 案

1. 提案者 科学と社会委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 科学と社会委員会科学力増進分科会、独立行政法人国立女性教育会館
- 2 協 力 男女共同参画学協会連絡会
- 3 日 時 平成21年8月13日（木）～8月15日（土）
- 4 会 場 （独）日本女性教育会館
（〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷728番地）

5 次 第
○ 開催趣旨

科学者・技術者との対話、交流を通して女子中高生が科学・技術分野に自分の新しい可能性を見出すことをねらいとして、合宿形式の体験型サイエンスプログラム「女子中高生夏の学校 2009～科学・技術者のたまごたちへ～」を開催します。

このプログラムでは、Initiation、Interaction、International をキーワードに、科学者・技術者と女子中高生が少人数を単位として親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えます。また、保護者・教員向けのプログラムも別に設定し、理系進路支援について理解を進めます。

○ プログラム等
別紙要項（案）参照

○ 参加方法

国立女性教育会館事業課へ郵送・FAX・ホームページからのいずれかでお申し込みください。なお、ホームページでのお申し込みは会館のホームページをご参照ください。ホームページ又はFAXでの申し込みは、送信後その旨を電話でご連絡ください。「夏の学校」ホームページ：
<http://www.natsugaku.net>

(案)

平成 21 年度独立行政法人科学技術振興機構委託事業

平成21年度 女子中高生夏の学校 2009

～科学・技術者のたまごたちへ～



- 1 趣 旨 科学者・技術者との対話、交流を通して女子中高生が科学・技術分野に自分の新しい可能性を見出すことをねらいとして、合宿形式の体験型サイエンスプログラム「女子中高生夏の学校 2009～科学・技術者のたまごたちへ～」を開催します。

このプログラムでは、Initiation、Interaction、International をキーワードに、科学者・技術者と女子中高生が少人数を単位として親密に交流し、理系進路選択の魅力を伝えます。また、保護者・教員向けのプログラムも別に設定し、理系進路支援について理解を進めます。

- 2 主 催 独立行政法人国立女性教育会館
日本学術会議「科学と社会委員会 科学力増進分科会」 (予定)

- 3 協 力 男女共同参画学協会連絡会

- 4 会 場 国立女性教育会館
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728 番地
TEL : 0493-62-6711 (代表)
FAX : 0493-62-6720
ホームページ : <http://www.nwec.jp/>
E-mail : progdiv@nwec.jp

「夏の学校」ホームページ: <http://www.natsugaku.net>

- 5 期 日 平成 21 年 8 月 13 日 (木) ～ 8 月 15 日 (土) 2泊3日

- 6 参 加 者 科学・技術の分野に興味・関心のある女子中学3年生・女子高校生 100名
保護者・教員等 50名

7 申込について

- (1) 申込方法 国立女性教育会館事業課へ郵送・FAX・ホームページからのいずれかでお申し込みください。なお、ホームページでのお申し込みは会館のホームページをご参照ください。ホームページ又はFAXでの申し込みは、送信後その旨を電話でご連絡ください。

- (2) 申込期間 平成 21 年 6 月 1 日 (月) ～ 6 月 30 日 (火) 午後 5 時締切

※ 応募者多数の場合は抽選により参加者を決定します。

また、応募者多数の場合は、1校につき3名までとさせていただきます。

- (3) 決定通知 申し込みの結果については、7月10日までに、ご本人宛に文書により通知します。

8 所要経費 参加費は無料です。

- (1) 宿泊費は、女子中高生・保護者・教員とも「夏の学校」期間中（前後泊ともに）1泊1,000円です。
- (2) 期間中の食事は、国立女性教育会館内のレストランでおとりいただきます。
食費は、1食1,000円程度（カフェテリア方式）です。
なお、懇親会費は2,000円、2日目の昼食のお弁当は800円です。
- (3) 参加女子中高生の交通費につきましては、往復25,000円を超える料金の一部を補助いたします（往復学生割引適用時）。補助希望者は当日、印鑑をお持ちください。
- (4) 参加者全員に保険に加入していただきます（自宅を出てから帰宅まで）。保険料は、参加者にご負担いただきます。

9 日 程

【中高生用】

<第1日 8月13日（木）>

- (1) 開校式<中高生、保護者・教員等共通> 14:00~14:30
挨拶・オリエンテーション
- (2) キャリア講演<中高生、保護者・教員等共通> 14:40~15:30
企業での研究、なぜその進路を選んだか、また結婚や子育てとの両立について講演を聞きます。
講 師 橋本 隆子 元リコーソフトウェア研究開発本部
(現千葉商科大学 商経学部 准教授)
- (3) 学生企画 女子学生からのメッセージ<中高生、保護者・教員共通> 15:45~16:15
身近な理工系女子大学生・大学院生が自分の今を紹介し、理系で学ぶことの楽しさを知ります。
- (4) 女性研究者・技術者の職場探訪 豊穡なる星の世界「すばる」ライブ
<中高生、保護者・教員共通> 16:30~18:00
自然科学研究機構国立天文台ハワイ観測所と結び、日本の誇る「すばる」望遠鏡や国際天文台で働く人たちとリアルタイムでコミュニケーションします。また、ライブの天体ショーを体験します。
- (5) 夕 食 18:00~19:00
- (6) 学生企画 サイエンスバトル！？<中高生> 19:00~21:00
グループで協力し合い、学生スタッフの出題する課題・クイズに挑戦しながらグループの親交を深めます。同時に会館内オリエンタリングと参加者—スタッフ間の交流も行います。
- (7) 天体観望会<オプション企画> 21:00~
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。

<第2日 8月14日(金)>

- (8) サイエンスアンバサダー・レクチャー編<中高生> 9:00~10:00
サイエンスエクスプローラー(科学探検隊)での実験・実習、ポスターセッション・キャリア相談の体験をレポートにまとめ、サイエンスアンバサダーとして地域で報告するための心構えを学びます。
- (9) サイエンスエクスプローラー(科学探検隊)Ⅰ<中高生> 10:00~12:00
サイエンスの世界を探検し、サイエンスの宝を探します。
予め希望した実験・実習A~H(別紙参照)を行い、研究者・技術者と交流し、自分なりの発見をします。
- <昼 食> 12:00~13:00
- (10) 国際交流<中高生> 13:00~14:00
韓国の女子高校生とweb交流を行い、学校や日ごろの生活、お互いの夢を語り合います。
- (11) サイエンスエクスプローラー(科学探検隊)Ⅱ<中高生> 14:00~18:00
サイエンスの世界を探検し、サイエンスの宝を探します。
ポスターセッション・キャリア相談ブースを参加者が自由に回り、研究者・技術者と交流したりして、自分なりの発見をします。
- (12) 交流パーティー<中高生、保護者・教員等共通> 18:00~19:00
夕食をとりながら、講師、実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。
- (13) 学生企画 サイエンスアンバサダー・トレーニング編<中高生> 19:00~21:00
「レクチャー編」で学んだ手法を活用し、得た情報をもとに「わたしの夏学タイムズ」を作成します。
- (14) 天体観望会<オプション企画> 21:00~
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。サイエンスエクスプローラーの天体実験に参加した中高生は、自ら組み立てた望遠鏡を使って観測します。

<第3日 8月15日(土)>

- (15) 学生企画 「才媛双六」^{さいなんそうろく}<中高生> 9:00~11:00
学生スタッフが作成した「理系女子版人生ゲーム」を楽しみながら、就職や結婚、育児など理系特有の悩みや人生に関わるさまざまな出来事を疑似体験します。
- (16) 学生企画 表彰式<中高生、保護者・教員等共通> 11:15~12:00
どんな3日間を過ごしたのかを振り返り、学生企画の成果をグループごとに発表、表彰を行います。
- (17) サイエンスアンバサダー任命式<中高生、保護者・教員等共通> 12:00~12:30
中高生参加者全員がサイエンスアンバサダーに任命されます。

※ 2日目のサイエンスエクスプローラーⅠの実験・実習のうち「H 河辺の生態系を観察しよう」を希望される中高生は、野外観察になるため、日よけ(帽子等)、虫除け薬、長袖・長ズボン等をご用意ください。

【保護者・教員等用】

<第1日 8月13日(木)>

- (1) 開校式<中高生、保護者・教員共通> 14:00~14:30
挨拶・オリエンテーション
- (2) キャリア講演<中高生、保護者・教員等共通> 14:40~15:30
企業での研究、なぜその進路を選んだか、また結婚や子育てとの両立について講演を聞きます。
講 師 橋本 隆子 元リコーソフトウェア研究開発本部
(現千葉商科大学 商経学部 准教授)
- (3) 学生企画 女子学生からのメッセージ<中高生、保護者・教員共通> 15:45~16:15
身近な理工系女子大学生・大学院生の自分の今の紹介を聞き、理系で学ぶことの楽しさを知ります。
- (4) 女性研究者・技術者の職場探訪 豊穡なる星の世界「すばる」ライブ
<中高生、保護者・教員等共通> 16:30~18:00
自然科学研究機構国立天文台ハワイ観測所と結び、日本の誇る「すばる」望遠鏡や国際天文台で働く人たちとリアルタイムでコミュニケーションします。また、ライブの天体ショーを体験します。
- (5) 夕 食 18:00~19:00
- (6) 「夏の学校」についての説明<保護者・教員等> 19:00~21:00
企画の目的、これまでの歴史について過去のDVDの放映および担当者からの説明による「女子中高生夏の学校」についてのガイダンスを行います。
- (7) 天体観望会<オプション企画> 21:00~
天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。

<第2日 8月14日(金)>

- (8) ポスター見学<保護者・教員等、一般公開> 9:00~12:00
協力学会、企業や大学、研究機関からのさまざまな立場の研究者・技術者による最先端科学技術の紹介を聞きます。
- <昼 食> 12:00~13:00
- (9) サイエンスカフェⅠ<保護者・教員等> 13:00~18:00
女性の理系進路選択の魅力や女子中高生がめざす理系研究の今について、座談会、企業の人事担当者のミニ講演、リクルートビデオの視聴、研究分野の最先端の紹介等で説明します。
- (10) 交流パーティー<中高生、保護者・教員等共通> 18:00~19:00
夕食をとりながら、講師、実行委員、女子大学生・大学院生との交流を深めます。
- (11) サイエンスカフェⅡ<保護者・教員等> 19:00~21:00
大学の教員と保護者、教員が少人数でテーブルトークを行います。

(12) 天体観望会<オプション企画>

21:00～

天体望遠鏡で武蔵嵐山の空を観測します。サイエンスエクスプローラーの天体実験に参加した中高生は、自ら組み立てた望遠鏡を使って観測します。

<第3日 8月15日(土)>

(13) NWE Cプログラム<保護者・教員等>

9:00～11:00

国立女性教育会館提供のプログラムとして、女性の理系進路選択を含むキャリア形成についてワークショップなどを行います。

(14) 学生企画 表彰式<中高生、保護者・教員等共通>

11:15～12:00

どんな3日間を過ごしたのかを振り返り、学生企画の成果をグループごとに発表、表彰を行います。

(15) サイエンスアンバサダー任命式<中高生、保護者・教員等共通>

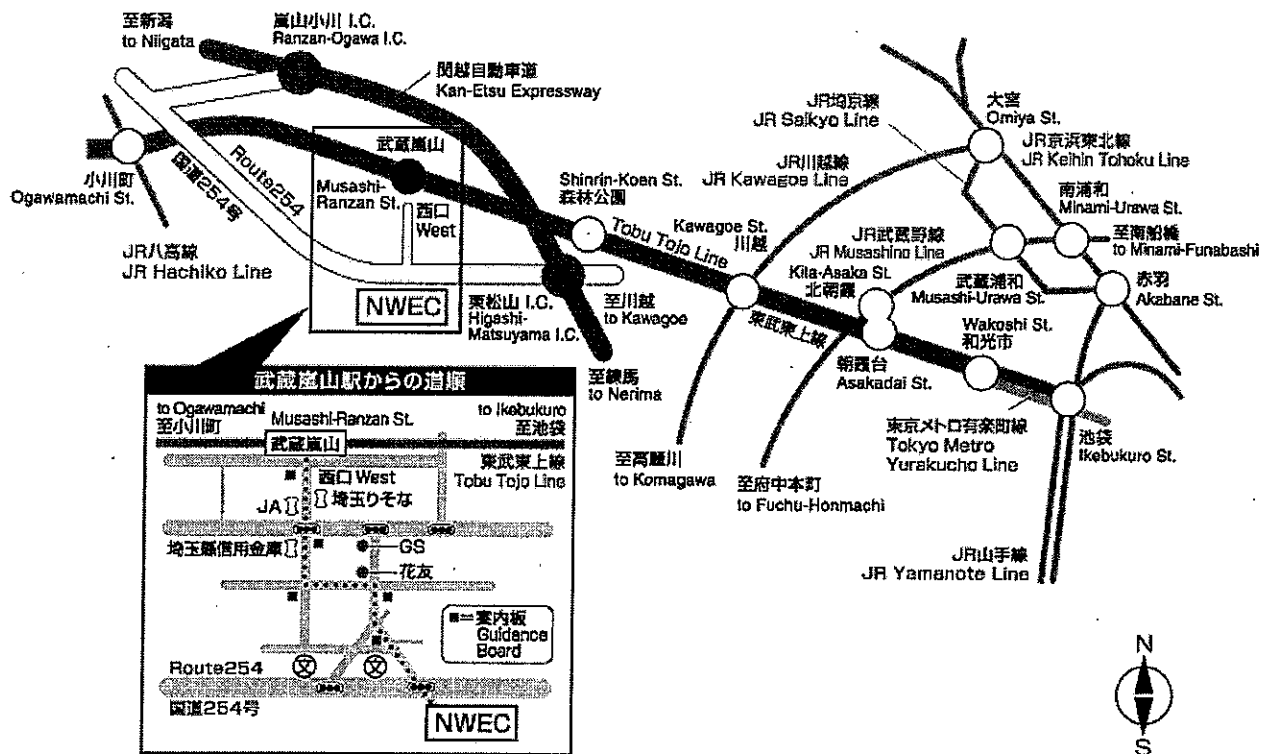
12:00～12:30

中高生参加者全員がサイエンスアンバサダーに任命されます。

※ 2日目のポスター見学については一般公開で行います。

10 経 路

※ 初日の8月13日と最終日の15日は、国立女性教育会館最寄り駅の東武東上線「武蔵嵐山駅」東口と会館の間で無料送迎バスを運行します。運行時間等は、参加決定通知に同封しますので、ご利用ください。



●電車では

- 東武東上線武蔵嵐山駅から徒歩 15 分
- ※最寄の駅からタクシー利用
- 森林公園駅、小川町駅から 15 分
- 武蔵嵐山駅から 5 分
- ※武蔵嵐山駅へは
- 池袋駅から東武東上線急行「小川町行き」で約 60 分
- 小川町駅から東武東上線で 7 分
- ※東京メトロ副都心線で渋谷から池袋まで急行で約 11 分
- ※東京メトロ有楽町線、副都心線の和光市駅から東武東上線に乗換えができます。

●自動車では

- 東京方面は、練馬 I.C. から関越自動車道で 35 分
- 東松山 I.C. から国道 254 号で 15 分
- 新潟方面は嵐山小川 I.C. から国道 254 号で 15 分

※リムジンバス利用

森林公園駅北口と成田空港・羽田空港間のリムジンバス、また大阪駅・京都駅間の高速バスが発着していますのでご利用ください。

【問い合わせ先】

国立女性教育会館 事業課 担当：佐國、池谷
〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728
TEL：0493-62-6711 (内線 2106、2103)
FAX：0493-62-6720
URL：<http://www.nwec.jp/>
E-mail：progdiv@nwec.jp

17	
幹事会	78

提 案

公開シンポジウム「海と陸と人と」の開催について

1. 提案者 地球惑星科学委員会委員長
2. 議 案 標記シンポジウムを下記のとおり開催すること。

記

1. 主 催 日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会
2. 共 催 日本地球惑星科学連合、地理学連携機構、東京地学協会 (予定)
3. 日 時 平成21年8月21日(金) 13時30分～17時
4. 場 所 日本学術会議 6-C(1)(2)(3)会議室
(〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34)
5. 計画の概要
 - (1) 開催趣旨

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会は平成20年6月に提言「陸域－縁辺海域における自然と人間の持続可能な共生へ向けて」を取りまとめた。陸域－縁辺海域は生産活動、消費活動など人間活動の主要な場であり、食料、鉱物、水、エネルギーなどの資源を提供してくれる場であると同時に、地球環境問題が山積し、大きな自然災害がしばしば起こる場でもある。この提言は、その陸域－縁辺海域における自然と人間の持続可能な共生を実現するための地球情報基盤の整備、実態把握と問題解決のための研究の推進、開発・防災政策と教育の推進等について取りまとめたものである。本シンポジウムは、この提言の実現に向けた活動の一環として計画されたものであり、次代を担う高校生を主な対象として、この提言の内容をわかりやすく広く紹介することを目的とする。

(2) プログラム

開催趣旨	青山学院大学教授 岡部篤行
豊かな海の秘密	北海道大学名誉教授 若土正暁
沿岸海域の汚染と地理情報システム	立正大学教授 後藤真太郎
地球科学界の新顔メタンハイドレートは善玉か悪玉か？	東京大学教授 松本 良
21 世紀の土地の利用と海の利用ーまとめにかえて	北海道教育大学教授 氷見山幸夫
ほか	

(3) 参加資格、費用

このシンポジウムは一般公開で、参加費は無料です。

問合せ先：

E-mail: himiyama@asa.hokkyodai.ac.jp

Tel. Fax.: 0166-59-1283

氷見山幸夫（地球・人間圏分科会副委員長）

18	
幹事会	78

提 案

日本学術会議九州・沖縄地区会議学術講演会の開催について

- 1 提案者 科学者委員会委員長
- 2 議 案 標記講演会を下記のとおり開催すること。

記

- 1 主 催 日本学術会議九州・沖縄地区会議、長崎大学
- 2 日 時 平成21年7月7日(火) 14:30～ 3～3.5時間
- 3 場 所 長崎大学 中部講堂(700名程度)
- 4 次 第

(開催趣旨)

日本の大学における海外協力の事例紹介とリアム・ウェレ博士(第1回野ロアフリカ賞受賞者)によるアフリカでの健康開発への取り組みを、主に長崎県内の高校生、大学生などの若い世代に紹介し、学術による国際貢献等について関心を持ってもらうことを目的とする。

(テーマ)

日本の国際貢献・国際協力とアフリカの健康開発(仮)

(講師及び演題)

(1) 挨拶 日本学術会議会長

(2) 講演

①日本の国際貢献・国際協力の例として長崎大学による国際貢献

・嶋田雅暁 教授(熱帯医学研究所)

・山下俊一 教授(医歯薬総合研究科)

・大西 眞由美教授(医歯薬総合研究科)

②野ロアフリカ賞とアフリカの健康開発へのとりくみ

・リアム・ウェレ博士(ケニア)

(3) 討論

19	
幹事会	78

提 案

国内会議の後援

- 1 提案者 会 長
- 2 議 案 後援の依頼について回答すること。
- 3 提案理由 下記の会議について、後援の依頼があり、関係する部等に審議付託した結果を下記のとおり回答することとしたい。

記

○後援する

名 称 等	申 請 者	審議 付託先
次世代スーパーコンピューティング・シンポジウム 2009 ① 主催：理化学研究所 ② 期間：平成 21 年 10 月 7 日～8 日 ③ 場所：丸の内 MY PLAZA ホール、会議室	独立行政法人 理化学研究所 理事長	第三部
自動制御連合講演会 ① 主催：システム制御情報学会、計測自動制御学会、日本機械会 ② 期間：平成 21 年 11 月 21 日～22 日 ③ 場所：大阪大学大学院基礎工学研究科	システム制御 情報学会会長	第三部
第 11 回日本感性工学会大会 ① 主催：日本感性工学会 ② 期間：平成 21 年 9 月 8 日～10 日 ③ 場所：芝浦工業大学 豊洲キャンパス	日本感性工学 会会長	第三部

20	
幹事会	78

提 案

国際会議の後援について

1 提 案 者 会 長

2 議 案 国際会議を後援すること。

3 提案理由 下記の国際会議について後援の申請があり、「日本学術会議の
行う国際学術交流事業の実施に関する内規」第38条に基づき、
国際委員会(主催等検討分科会)において審議を行ったところ、
適当である旨の回答があったので、後援することとしたい。
なお、国際会議の概要は、別紙のとおりである。

記

国際犯罪学会 第16回世界大会

後援を希望する国際会議の概要

会 議 の 名 称	和文：国際犯罪学会 第16回世界大会 英文：The 16 th World Congress of the International Society for Criminology (略称：ISC)										
開 催 時 期	平成23年8月5日～8月10日（6日間）										
開 催 場 所	兵庫県（神戸国際会議場）										
主 催 団 体	日本犯罪関連学会連合会										
共 催 団 体	なし										
後 援 団 体	日本学術会議（希望）、文部科学省（予定）、法務省（決定）、警察庁（予定）、最高裁判所（予定）、日本弁護士連合会（予定）、大阪弁護士会（予定）、兵庫県弁護士会（予定）、兵庫県（決定）、神戸市（決定）など										
母 体 団 体 等	和文：国際犯罪学会 英文：International Society for Criminology (略称：ISC)										
参加予定者数 [参加予定国]	国外 500 人 国内 700 人 計 1,200 人 [58 カ国/2 地域]										
会 議 内 容	全体会、シンポジウム、分科会、ポスターセッション、展示、開会式、ISC 理事会、学術委員会、総会、ISC 授賞式、閉会式等										
会 議 議 事 録 等	学会開催の概要について事後報告する予定										
開催経費の財源	<table border="0"> <tr> <td>参 加 費</td><td>42,100 千円</td></tr> <tr> <td>助 成 金</td><td>24,000 千円</td></tr> <tr> <td>寄 付 金</td><td>26,500 千円</td></tr> <tr> <td>その他</td><td>2,050 千円</td></tr> <tr> <td>計</td><td>94,650 千円</td></tr> </table>	参 加 費	42,100 千円	助 成 金	24,000 千円	寄 付 金	26,500 千円	その他	2,050 千円	計	94,650 千円
参 加 費	42,100 千円										
助 成 金	24,000 千円										
寄 付 金	26,500 千円										
その他	2,050 千円										
計	94,650 千円										
[募 金 団 体]	あり。※窓口となる団体はなし。										
申 請 者	日本犯罪関連学会連合会 会 長 渥美 東洋										
連 絡 責 任 者	国際犯罪学会 第16回世界大会 事務局長 谷岡 一郎										